

研 究 概 要

No. 62

令和5年度



八王子市立中学校教育研究協議会

「研究概要」の発刊に寄せて

八王子市教育委員会
教育長 安間 英潮

八王子市立中学校教育研究協議会による「研究概要62号」の発刊を心よりお祝い申し上げます。

令和5年12月、令和4年（2022年）に実施されたOECDによる国際的な学習到達度に関する調査、いわゆるPISA調査の結果が公表されました。義務教育修了段階の生徒がもつ知識や技能を、実生活の場面でどの程度活用できるかを測る本調査において、日本は読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野全てにおいて前回調査より平均得点が上昇し、3分野全てで世界トップレベルの結果を残しました。この背景には、コロナ禍において、生徒のために何ができるのかを考え指導に当たったこと、現行の学習指導要領の趣旨を理解し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進めたことなど、高いレベルで指導を行った教員のたゆまぬ努力があります。

さて、教員の指導力は、一朝一夕で身に付かず、日々の授業や子どもたちとの関わりの中で挑戦を繰り返し、成功や失敗を経験する中で次第に身に付いていきます。そして、この「経験からの学び」を促す上で、同僚など他者の存在は非常に大きな役割を果たします。他者と互いの授業を見合い、対話することを通じて、自分一人では得られなかった気づきを得ることができるのです。そのような場として、本研究協議会が果たすべき役割は非常に大きいと認識をしております。

たくさんの生徒と向き合い、その成長に寄り添う教職という仕事は、とても奥深く、時に困難も伴います。そのような時には、本研究協議会で出会った仲間と悩みを分かち合い、切磋琢磨し合うことで、よりよい授業を創る活力につなげてほしいと思います。今後も、本研究協議会における研究が一層充実することを願っています。

結びに、八王子市立中学校教育研究協議会会長の八王子市立恩方中学校 校長 植田恭正先生をはじめ、各部の研究を推進していただきました各部長・副部長の先生方並びに講師として御指導を賜りました多くの先生方にお礼を申し上げますとともに、本誌62号の発刊にあたりまして御尽力いただきました編集委員の先生方に感謝申し上げます、挨拶といたします。

はじめに

八王子市立中学校教育研究協議会
会 長 植 田 恭 正

本会は、中学校教育の進展に向け、会員相互の連携を緊密にし、会員による研修を通して八王子市立中学校の教育に寄与することを目的に、昭和33年に発足した歴史と伝統ある会です。

今年度は、各教科・領域において874名の市立中学校教員が会員となり活動を進めてきました。各部会では、魅力ある質の高い授業の展開方法の研修・多くの先生方の研究実績や成果を持ち寄り分析する・分科会の設定や教科の研究大会との連携・経験豊富な講師の方々を招聘するなど工夫して研修・研究が進められました。一斉部会では、実践的な演習を取り入れ、自分の授業の手助けとなる時間を過ごすことができ、若手の授業力向上にもつなげることもできたという前向きな意見が多くありました。

教員の事務作業の軽減や働き方改革に向けての視点からは、必要に応じてオンラインでの打ち合わせ、C4 t hやGoogleの活用なども各部ごとに盛り込まれ活動が進められました。

現学習指導要領の視点からは「社会に開かれた教育課程」を実現するという理念のもと、資質・能力の育成を常に意識した実践が発表されました。

令和2年春から続いた新型コロナウイルス感染症も第五類に移行し、徐々に以前の形態に戻りつつある中で、今年度も各部において様々な取り組みを工夫し展開して頂きました。ありがとうございます。その中で、今までと同じ取組を継続するのか、あるいはリセットするのか、改善が必要なのかを精査しなければならない時期にも来ています。今まで以上に会員相互が力を合わせ、教育課程や各教科等の学びを通じて生徒の育成すべき資質・能力を整理する必要があるとも考えます。是非、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、各教科・領域の部長・副部長としてご尽力いただきました校長先生方・副校長先生方、研究・研修の推進役として会の運営や実務を担っていただきました各部幹事の先生方に感謝申し上げますとともに、また本会の活動を支えていただきました八王子市教育委員会の皆様に心より御礼を申し上げます。

目 次

あいさつ 八王子市教育委員会 教育長 安間 英潮

はじめに 八王子市立中学校教育研究協議会 会長 植田 恭正

I	八王子市立中学校教育研究協議会のあゆみ……………	1
II	11月8日 中教研一斉部会報告……………	4
III	令和5年度 八王子市立中学校教育研究協議会 事業報告……………	5
IV	各部のあゆみ……………	6
V	研究のまとめ……………	14
VI	令和5年度 八王子市立中学校教育研究協議会 組織……………	41

I 八王子市立中学校教育研究協議会のあゆみ

年度	会 長	会員数(名)	予算額 (円)	特記（講演その他）
3 5	住友 国春	3 1 0	225,110	講演（科学博物館技師 村内必典 氏） 15 部会で発足
3 6	住友 国春	3 2 4	230,143	『研究概要』第 1 号発行
3 7	広沢 堯雄	3 5 0	325,053	教科書採択年であり、教科書に着いての研究会を多く開催する。
3 8	広沢 堯雄	3 5 0	419,853	各部研究会を盛んに実施する。
3 9	広沢 堯雄	4 0 0	492,973	各部研究会を盛んに実施する。
4 0	広沢 堯雄	4 0 0	518,909	講演「最近の国際情勢」 （読売新聞論説委員 宮崎吉政 氏）
4 1	田倉 里一	4 0 0	570,549	講演「スタジオ 1 0 2 の裏話」 （NHK 102 デスク 上田光太郎 氏）
4 2	田倉 里一	4 0 7	585,011	講演「明治百年と維新期の人々」 （東京経済大学教授 色川大吉 氏）
4 3	飯島 一吉	4 1 4	698,849	講演「マスコミの社会的責任」 （前 NHK 関西放送局長 藤本 清 氏） 新学習指導要領が示され、その研究を活発に行う。
4 4	飯島 一吉	4 1 6	814,041	講演「少年をよき社会人とたらしめるため、教師と家庭に望むもの」 （東京婦人補導員長 高崎セツ子 氏）
4 5	岸田林太郎	4 1 0	866,229	講演「最近の情勢」 （毎日新聞論説員 升岡忠敏 氏）
4 6	岸田林太郎	4 0 9	916,205	講演「これからの日本」 （東洋大学教授 金岡秀友 氏）
4 7	田所 理作	4 1 5	907,737	講演「今後の政局と課題」 （日本経済新聞社社会部次長 一木 豊 氏） 新教育課程本格実施、『研究概要』に研究論文を掲載する。
4 8	渡辺 哲郎	4 6 2	1,128,112	講演「人間教育の問題点」 （東洋大学教授 金岡秀友 氏）
4 9	渡辺 哲郎	4 7 5	1,285,029	講演「現在の教育の問題点」 （読売新聞論説委員 加藤地三 氏） 教育相談部新設、20 部となる。
5 0	小山 秀一	4 9 4	1,493,132	講演「現代学校教育の課題」 （東京家政学院大学教授 青木章心 氏）
5 1	小山 秀一	5 3 9	1,648,133	講演「日本人の自然の対応する知恵」 （國學院大學教授 樋口清之 氏） 学校数、教員数が著しく増加する。
5 2	秋山 保男	5 6 1	1,820,274	講演「教育課程の改善と今後の学校教育」 （文教大学教授 北沢弥吉 氏）
5 3	秋山 保男	6 5 4	1,909,970	講演「焼き物の話」（陶芸家 井上郷太郎 氏） 「ゆとりと充実」という教育課程の基準が示される。
5 4	池田 角三	6 7 1	1,945,007	講演及び実技「車人形について」（西川古柳 氏） 56 年度からの新教育課程への移行にかかわり各部が活発に研究する。
5 5	大原ヒロシ	7 1 7	1,767,098	講演「これからの情報社会」 （TBS 解説委員 新堀敏明 氏） 新教育課程試行にかかわり各部が活発に研究する。

5 6	大原ヒロシ	7 7 0	2,163,961	講演「禅における師弟の絆」 (広園寺専門道場老師 丹羽慈祥 氏) 新教育課程本格実施、その研究を活発に行う。
5 7	小谷野 茂	8 1 1	2,455,736	講演「1本の母の腰ひも」 (NHK放送用語委員 扇谷正造 氏)
5 8	田村 元次	8 6 0	2,610,483	講演「原点に立つ教育と実践」 (長野篠ノ井高等学校 若林繁太 氏)
5 9	田村 元次	8 9 2	2,761,096	講演「シルクロードを取材して」 (NHKチーフプロデューサー 遠藤文太 氏)
6 0	國山 直輝	9 2 7	2,690,874	講演「非行を生む母親教師」 (TBSアナウンス部 榎本勝起 氏)
6 1	柴山 一郎			講演「現代の教育問題に関する考え方」 (東京学芸大学教授 辰巳敏夫 氏)
6 2	古内 保		2,597,299	講演「やる気を育てる生活指導」 (千葉大学教授 坂本彰一 氏)
6 3	刈田 仁	9 0 9	2,572,822	講演「体と心の健康について」 (東京慈恵医科大学長 阿部正和 氏)
元	腰原 信夫	9 0 3	2,532,570	講演「動物の子育てに学ぶ」 (都立多摩動物公園長 矢島 稔 氏) 各部会の出席率が課題となる。
2	長谷川義次	9 0 5	2,545,361	講演「今、地球で何が起きているか」 (NHKディレクター 原口卓也 氏)
3	舘 比佐男	8 7 9	2,568,108	講演「八王子車人形：三番叟、小栗判官、洋舞」 (西川古柳一座) 連合音楽会、中P連との共催になる。
4	谷合庸次朗	8 4 5	2,614,553	講演「ベンガルの大地に歌をはぐくむ」 (シャプラニール 川口良幸 氏) 八王子テレメディアで芸能祭と連合音楽会が放送される。
5	伊藤 順雄	8 1 6	2,696,945	講演「エイズと教育」(杏林大学客員教授 南谷幹夫 氏)
6	東海林和衛	8 1 3	2,816,275	講演「日本近代文学と西洋音楽」 (中央大学 中村洪介 氏)
7	吉田 盛彦	7 8 4	2,711,892	講演「来るべき世紀の課題」 (東洋大学名誉教授 金岡秀友 氏) 学校の小規模化が進行／席書大会を廃止
8	斎藤 春樹	7 6 4	2,733,015	講演「国連とPKO」 (新聞資料センター主宰 川辺一郎 氏)
9	渡辺 和則	7 5 5	2,884,831	講演「国際化を考える」(NHK特別主幹 高島肇久 氏) 台風のため狂言教室を一部中止する
1 0	岡田 文彦	7 5 5	2,884,831	講演「成長期のスポーツ障害とその防止について」 (日本医科大学整形外科助教授 伊藤博元 氏)
1 1	井上 正	7 4 8	2,597,106	講演「21世紀の青少年が精神難民にならないために」 (家庭教育カウンセラー 内田怜子 氏)
1 2	鈴木 博久	7 4 5	2,597,106	講演「21世紀の国際社会に生きる生徒をどう育てるか ー新しい教育改革が求めるものー」 (共立女子大学総合文化研究所教授 松山幸雄 氏)
1 3	松上 一彦	7 2 2	2,523,667	講演「今の学校の何が問題なのかー『学校批判』を克服する道」 (多摩大学経営情報学部客員教授 山岸駿介 氏)
1 4	福島 良樹	7 0 9	1,235,477	講演「共に生きるーヒトと微生物、ヒトとヒトとの共生」 (東京医科歯科大学大学院教授 藤田紘一郎 氏)

1 5	山村幸太郎	7 2 6	1,245,793	講演「ゲーム脳の恐怖と脳の健康」 (医学博士・日本大学教授 森 昭雄 氏) 心身障害教育部新設、15 部会になる。
1 6	倉田 茂	7 3 7	904,809	講演「感性を育てる中学校教育」 (明星大学教授 高橋史朗 氏)
1 7	加藤 重義	7 3 5	1,077,287	講演「非行少年の現状と中学校教育に求められること」 (元横浜鑑別所長 今村洋子 氏)
1 8	加藤 重義	7 1 0	1,161,102	講演「今、企業で求めている人材～そのために中学校教育で 培っておくこと」(法政大学キャリアデザイン学部教 授・元古河電気工業株式会社社長 桐村晋次 氏)
1 9	松木 実	7 5 3	1,076,551	講演「マクドナルドの人材育成～13万人のアルバイトと5千 人の社員がブランドを育てる」(日本マクドナルドハン バーガー 遠藤真司 氏) 情報教育部廃止、14 部会に なる。心身障害教育部を特別支援教育部とする。
2 0	松木 実	7 6 2	996,556	講演「8 年間の東京都教育委員会の経験を生かし、八王子の 教員に期待するもの」 (前東京都教育委員・永世棋聖 米長邦雄 氏)
2 1	高塚 健治	7 7 8	948,503	講演「ラグビー人生とコーチング」 (早稲田大学ラグビー部蹴球部監督 中竹竜二 氏) 会則と活動内容の見直しを進める。
2 2	高塚 健治	7 9 4	882,202	講演「学校問題のよりよい解決に向けて」 (弁護士 三坂彰彦 氏) 多様化する保護者や地域住民の要望 への対応
2 3	山田 治	8 0 1	929,336	総会を代議員で行い、講演会は開催しなかった。 一斉部会を 11 月 2 日に設定実施した。
2 4	山田 治	8 2 1	929,336	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 7 日に設定実施した。
2 5	山田 治	8 4 3	1,001,804	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 6 日に設定実施した。
2 6	枝村 晶子	8 3 9	1,025,521	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 5 日に設定実施した。
2 7	枝村 晶子	8 3 4	1,072,080	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 4 日に設定実施した。
2 8	枝村 晶子	8 4 8	1,056,941	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 2 日に設定実施した。
2 9	前田 賢一	8 6 1	1,007,846	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 1 日に設定実施した。
3 0	前田 賢一	8 4 7	955,610	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 7 日に設定実施した。
元	持田 晃	8 6 2	945,421	総会を代議員で行う。 一斉部会を 11 月 6 日に設定実施した。
2	渡辺 恭秀	8 6 0	66,387	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
3	渡辺 恭秀	8 8 6	950,387	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を 11 月 10 日に設定実施した。
4	渡辺 恭秀	8 8 3	1,135,368	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を 11 月 9 日に設定実施した。
5	植田 恭正	8 7 4	1,401,376	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を 11 月 8 日に設定実施した。

Ⅱ 11月8日 中教研一斉部会報告

部会名	内容	会場
国語部	研究授業・協議会と研修会の報告発表会	八王子市教育センター
社会部	研究授業・研究協議	第六中学校 第五中学校 いずみの森義務教育学校
数学部	研究授業・研究協議	恩方中学校 第四中学校 打越中学校
理科部	『第70回全国中学校理科教育研究会東京大会』参加	東京ビッグサイト 他
音楽部	研究授業・研究協議	いずみの森義務教育学校
美術部	研究授業・研究協議	由井中学校
保健体育部	研究授業・研究協議	館中学校
技術部	研究授業・研究協議	由井中学校
家庭部	研究授業・研究協議（11/8・1/8・3/7 実施）	梶田中学校 七国中学校 横山中学校
英語部	研究授業・研究協議	第二中学校 第六中学校 梶田中学校 中山中学校
養護部	講演会「心理・発達に支援が必要な生徒への対応について」（10/13 実施）	八王子市教育センター
道徳部	研究授業・研究協議（10/13・11/9・11/28 1/18・3/7・3/14 実施）	浅川中学校 中山中学校 四谷中学校 打越中学校 第七中学校 宮上中学校
特別支援 教育部	固定級 研究授業と協議会 特別支援教室 研究発表と講演	第一中学校 いずみの森義務教育学校

Ⅲ 令和5年度 八王子市立中学校教育研究協議会 事業報告

令和5年（2023年）

4月12日（水）領域主任会・教科主任会【教育センター、他】

5月 8日（月）第1回 幹事会【教育センター】

6月 7日（水）代議員総会（紙面総会にて実施）

（令和4年度事業報告・会計決算報告）

（令和5年度役員・部長・幹事等紹介、事業計画案・予算案審議）

9月 7日（木）第2回 幹事会【教育センター】

（各部活動報告、一斉部会について、研究概要について）

11月 8日（水）一斉部会【各領域・教科会場】※午後授業カット

11月10日（金）一斉部会【養護部会】

令和6年（2024年）

1月18日（木）～22日（月）八王子市小中合同作品展「おおるり展」

【エスフォルタアリーナ】

2月 6日（火）第3回 幹事会【教育センター】

（今年度のまとめ、次年度日程、次年度予算要望、研究概要進捗報告）

3月 7日（木）第4回 幹事会【教育センター】

（次年度配当予算案、次年度総会準備）※案の提示

IV 各部のあゆみ

1 国語部

部長 乙幡 英剛

国語部では、「各校の課題をふまえた指導法と評価の工夫」を今年度の研修テーマに掲げた。38校を8つの小ブロックに分け、研修推進委員会を中心に主体的に研修を進めた。一斉部会では、各ブロックの研究授業および協議会、対面による研修会の様子を報告する発表会を行った。東京都公立学校美術展覧会には書写作品を出品した。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4月12日	松が谷中	研修テーマ、年間活動計画等の検討
読書感想文審査会	9月19日	松が谷中	都読書感想文コンクールの地区代表審査
ブロック研究授業	6月15日	七国中	鈴木 美萌 読 教諭による研究授業および協議会
	9月25日	恩方中	田之倉 広司 教諭による研究授業および協議会
	10月5日	第四中	丸山 由美子 教諭による研究授業および協議会
	10月6日	由木中	大橋 里 指導教諭による研究授業および協議会
	10月19日	松が谷中	三宅 隆介 教諭による研究授業および協議会
ブロック研修会			(各ブロックにて実施)
中教研一斉部会	11月8日	教育センター	研究授業・協議会と研修会の報告発表会 講師：元中央大学教授 笠井 正信 先生

2 社会部

部長 井上 竜太

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科・領域主任会	4月12日	館小中学校	役員選出・研修テーマ決定
夏季研修会	8月1日	いずみの森 義務教育学校	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～「主体的に学習に取り組む態度」の育成 講師 東京都教職員研修センター企画部企画課統括指導主事 中村 伸也 先生
中教研一斉部会	11月8日	第六中学校 第五中学校 いずみの森 義務教育学校	授業者 森田 駿 教諭 講師 八王子市教育委員会学校教育部 教育指導課 指導主事 中西 祥雄 先生 授業者 西村 桂子 教諭 講師 八王子市教育委員会学校教育部 教育指導課 指導主事 山本 徹 先生 授業者 倉田 修 教諭 講師 八王子市教育委員会学校教育部 教育指導課 指導主事 山崎 晃司 先生

3 数 学 部

部長 川島 隆

年間テーマを『数学的活動を重視した学習指導』としました。一斉部会については、3つの会場において研究授業と研究協議会を実施しました。

会合の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科・領域主任会	4月12日	教育センター	テーマの確認、幹事等選出
中教研総会	6月14日	教育センター	
数学部研修会	8月21日	いずみの森 義務教育学校	「問題解決学習における 数学的活動と授業づくり」 講師：都留文科大学教授 新井 仁 先生
一斉部会 ・研究授業 ・研究協議会	11月 8日	恩方中学校	「変化と対応」 講師：由井中学校長 秋山 真一 先生
		第四中学校	「図形の調べ方」 講師：都留文科大学教授 新井仁 先生
		打越中学校	「変化と対応」 講師：甲ノ原中学校長 塚原 忍 先生

4 理 科 部

部長 白石 貴志

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
理科部 教科主任研修	4月12日	みなみ野小中学校	今年度の活動：役員選出、研修テーマ・ 計画確認、予算会計の検討。
第15回 八王子中学校 科学コンクール	7月～審査 12月初旬 発表会 及び 表彰式	各中学校 各ブロック 八王子市 教育センター	各中学校での募集、支援、審査の後、 各ブロックでの二次審査、最終審査。 受賞者プレゼン指導、ポスター制作指導等、 運営支援となる生徒研究指導・補助。
『第70回全国 中学校理科教 育研究会東京 大会』参加 (一斉部会)	8月6日 8月7日 8月8日	東京ビッグサイト 他	次の内容で本大会が開催された。 一日目：若手教員の実践発表と交流会、 役員会、理事会、ブロック会、 レセプション 二日目：開会式、文科省講演、分科会 三日目：記念講演、閉会式、 エクスカージョン 理科部会員は、精選して参加し、各々研鑽を深めた。

5 音楽部

部長 前田 賢一

「主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業を目指して

～協働的な学習による授業づくり～」を主題とし、授業研究等に取り組んだ。

4/12	教科主任会	今年度のテーマ、部会組織、活動計画等検討
7/6	研修会 (評価・評定)	研修主題「音楽科の授業における評価の実際」 【講師】杉並区立杉森中学校 指導教諭 小作 典子 先生
9/7	実技研修会 (創作)	研修主題「DTMの基礎知識、音楽Webアプリケーション (カトカトーン)を使用した創作」 【講師】東京藝術大学 特任助教 杉山 陽介 先生
11/8	一斉部会 (鑑賞)	研究授業「世界のさまざまな楽器の音楽を味わおう」(第3学年) 授業者 八王子市立いずみの森義務教育学校 主任教諭 木下 知美 【講師】玉川大学 非常勤講師 小林 史子 先生
2/1	実技研修会 (歌唱・合唱)	研修主題「2022年度 第89回NHK全国学校音楽コンクール 中学校の部 課題曲『Replay』 編曲者による歌唱指導」 【講師】作曲家 田中 達也 氏

6 美術部

部長 市場陽一郎

本年度は美術部会の活動は2回の担当校での研修会および研究授業の実施、2回の夏季研修会の参加またエスフォルタアリーナ八王子でおおるり展(市立小中学校合同作品展)を開催いたしました。また東京都公立学校美術展覧会を開催。都展への出展が生徒や教員の励みになると考えます。最後に関係の皆様のご協力に感謝いたします。

会合の名称	月日	場所	内容
研修1回目	6/12	第六中学校	研究授業「ICTを活用した授業と評価の付け方について」 八王子市立第六中学校 美術科 梶 貴哉
夏季研修会	7/31	国立西洋美術館	『美術館の常設作品を活用した、対話による鑑賞』 講師 国立西洋美術館学芸課主任研究員 酒井敦子氏 世田谷区立砧南中学校校長 松永かおり先生
夏季研修会	8/4	杉並区立泉南中学校	生徒作品を持ち寄って「学習指導要領と三観点での評価」の視点で行う協議・発表と講演。

			講師 文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 平田朝一先生
研修２回目 研究授業及び一斉部会にて「おおるり展」打ち合わせ	11/8	由井中学校	研究授業『ＡＩ絵ってどうなの？』 画像生成ＡＩに触れ実際に画像生成を体験する。ＡＩが今後どのように活用され、どのような点に注意しなければいけないか考える。 八王子市立由井中学校 美術科 新井 友涼
おおるり展	1/18~1/22	エスフォルタアリーナ 八王子１階	おおるり展作品搬入・展示・搬出
東京都公立学校 美術展覧会	2/14~2/18	東京都 美術館	東京都公立学校美術展覧会作品搬入・展示・搬出

７ 保 健 体 育 部

部長 田野倉 教泰

今年度は、「学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫」をテーマとして、実技講習会、研究授業（一斉部会）を実施した。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科・領域主任会	４月１２日	教育センター	情報交換、幹事等選出
実技講習会	９月１４日	第二中学校	
	ベースボール型球技の基礎・基本 講 師：桜美林大学 若松 健太 先生、ジャイアンツアカデミー		
役員会（幹事校）	１０月３０日	館中学校	指導案検討、一斉部会打合せ
一斉部会 研究授業 研究協議会	１１月８日	館中学校	○ 研究授業 「保健 傷害の防止」 ２学年 男女共習 授業者：館中学校 教諭 國安 瞳 ○ 研究協議会 ○ 指導・講評 講 師：日本中学校体育連盟 参与 菊山 直幸 先生

8 技術部

部長 長田 克

今年度は 4 月 1 2 日にて第1回技術部会を開催し、その中で今年度研究計画について協議を行いました。結果の研究テーマは昨年度に引き続き「指導と評価の一本化のための学習評価改善に関する研修」を実施しました。

1 1 月 8 日の中教研一斉部会では由井中学校 齊藤康太教諭による研究授業を行いました。当日は多くの会員が参加をし、A領域「材料と加工の技術による問題の解決」の実習事例を学ぶことが出来ました。また、評価材料と評価方法について討議を行い、研究分野に関する理解を深めることが出来ました。1 月 2 3 日には第五中学校において全日本中学校技術・家庭科研究会顧問 田極 政一郎 先生をお招きして「プログラミング教材の開発とその活用について」の研修会を行いました。

令和5年度【技術部会】 活動内容 会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4 月 1 2 日	教育センター	役員の選出・活動内容の検討
研究授業	1 1 月 8 日	由井中学校	A領域「材料と加工の技術による問題の解決」
技術部会	1 月 2 3 日	第五中学校	「プログラミング教材の開発とその活用について」 全日本中学校技術・家庭科研究会顧問 田極 政一郎 先生
第73回東京都公立 学校美術展覧会	2 月 1 3 日～ 2 月 1 8 日	東京都美術館	作品搬入、展示、搬出

9 家庭科部

部長 竹田 幸恵

今年度も昨年度に引き続き授業と評価の一体化を目指し研修を行った。その中でも、C領域「消費生活・環境」における3回の研究授業を通じた意見交換会では、主に「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の工夫について議論を重ねた。また、講師の先生や消費生活センターの方からの講義や指導を通して、今後の消費者教育に必要な視点や課題を学ぶことができた研修となった。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4 月 12 日	横山中学校	・役員選出 ・活動計画検討
ごみ処理施設見学	5 月 25 日	館クリーンセンター	・廃棄物処理とリサイクルの実際を学ぶ
夏季研修会	8 月 3 日	打越中学校	・「認知症サポーター養成講座」など
一斉部会研究授業	11 月 8 日 1 月 11 日 3 月 7 日	梶田中学校 七国中学校 横山中学校	・研究授業と協議会 ・講師による講義 C領域「消費生活・環境」 講師 東京家政学院大学 上村 協子 教授
金融教育研修	12 月 20 日	横山中学校	消費者教育副読本から金融教育を学ぶ 講師 FL パートナース 筒井 修平氏
東京都公立学校 美術展覧会	2 月 14 日 ～18 日	東京都美術館	生徒作品の搬入・展示・見学・搬出

10 英語部

部長 竹内 康裕

「指導と評価の一体化を意識した授業改善」を研究主題として、模擬授業を中心とした2・3年次研修、一斉部会での授業研究を行った。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4月12日	第五中学校	今年度テーマ、部会組織、活動計画等検討
2・3年次研修	8月23日	第五中学校	テーマ「授業づくりの原点」 講師 佐藤 ひろみ 教授 (順天堂大学)
一斉部会	11月8日	第六中学校 第二中学校 桐田中学校 中山中学校	研究授業・研究協議会 1ブロック 授業者 横山 達也 教諭 講師 東京女子大学 教授 本多 敏幸 先生 2ブロック 授業者 鈴木 奈々子 教諭 講師 順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生 3ブロック 授業者 川邊 耕太 教諭 講師 明星大学 教授 内田 富男 先生 4ブロック 授業者 西村 皐月 教諭 講師 玉川大学 教授 工藤 洋路 先生

11 養護部

部長 鷲尾 仁

年間計画に基づき研究を推進した。(会場：教育センター)

実施日	内容等
4月12日	領域主任会・教科主任会
5月2日	研究班の確認 研究推進委員、選出 研究テーマ、内容、今後の進め方を確認
6月9日	研究班ごとの研究
10月13日 (中教研一斉部会 内容)	講演会 「心理・発達に支援が必要な生徒への対応について」 講師 学校心理士・相談支援専門員 清水和彦先生
11月10日	研究班ごとの研究
1月19日	研究班ごとの研究(研究発表準備)
2月16日	研究報告会

1 2 道 徳 部

部長 大房 裕司

実施日	内 容 等
4月12日（金）	領域主任会・教科主任会 於教育センター
10月13日（金）	「幸せな仕事って」授業者 佐々木 淳子 主幹教諭（浅川中）
11月 9日（木）	「不自然な独り言」授業者 安元 貴幸悟 主任教諭（中山中）
11月28日（火）	「ちっぽけな勇氣」授業者 坂内 駿太 教諭（四谷中）
1月18日（木）	「いえがあるっていいね」授業者 岡田 敦 主任教諭（打越中）
3月 7日（木）	「未定」授業者 村松 諭 主幹教諭（第七中）
3月14日（木）	「百万回生きたねこ」授業者 海老澤 宏 主幹教諭（宮上中）

1 3 特別支援教育部

部長 深瀬 健志

特別支援教育部では、固定学級と特別支援教室ともに各校の指導や取り組みの様子、そして実践事例を参考に研修を行いました。初回は全体会、夏季休業中にはそれぞれの目的に合わせた研修の開催、11月の一斉部会では研究授業と研究発表を行いました。

今後も生徒の実態に合わせた指導方法や支援の在り方を検討するとともに、特別支援教育の専門性の向上を目指し、八王子市内の先生方の協力と連携のもとに進めていきたいと考えます。

教科・領域主任会	4月12日	檜原中学校	今年度の活動について 研究テーマの確認
夏季研修	8月9日	固定：教育センター	企業就労の実態について
	8月2日	特別支援教室：いずみの森義務教育学校	各校の実践内容の発表、情報交換
一斉部会	11月8日	固定：第一中学校 特別支援教室：いずみの森義務教育学校	固定：研究授業と協議会 【授業者】関 彩和子 教諭 【講師】 都立八王子西特別支援学校 鈴木 誠治 先生 特別支援教室：研究発表と講演 【発表者】末光 真之 主任教諭 【講師】 山梨学院短期大学 准教授 飯野 雄大 先生
定例会	2月28日	浅川中学校	今年度の活動報告 次年度に向けて

V 研究のまとめ

[国語部]

研究テーマ「各校の課題をふまえた指導法と評価の工夫」

八王子市立第七中学校 牧野 輝道

I 研究テーマの設定方針

今年度は、各校の取り組むべき課題に違いがある中で、特定のテーマに絞った研究をするのではなく、各校独自のテーマを決めて研究を進める方針を確認し、8ブロックそれぞれにおいて授業研究や教材研究を行った。その研究成果のいずれもが、各校の課題に応える有力な手がかりとなり得る、多彩な内容の研究発表となった。

II 一斉部会研究授業報告の要点

1 各校の課題

(1)知識・技能に関わる課題

- ①語彙力の幅が狭いこと。
- ②漢字の読み書きの定着度が思わしくないこと。
- ③語句の用法に誤解がみられること。

(2)思考・判断・表現に関わる課題

- ①討論活動を進めるにあたって、個々の発言力に差があること。
- ②文章を読むことへの苦手意識があること。
- ③書く力の不足。特に条件作文を仕上げる力が足りないこと。

(3)主体的に学習に取り組む態度に関わる課題

- ①知識を覚えることに対して、諦めがちな傾向が生徒にみられること。
- ②古典学習に対する意欲や主体性が弱いこと。
- ③クラスの中で、意欲的に発言する生徒が特定の数人に限られること。

2 上記の課題に対する各校の方策

(1)語彙力を広げる方策として、恩方中学校（2 Bブロック）では「ボキャブラリーバトル」が試みられていた。各単元の新出語句について、各自が「意味」と「例文」をできるだけ多くクロームブック上で発表し、その数を競うもので、特に例文作文に個性が出て、ゲームを楽しむような感覚で学習に取り組む生徒が増えていた。

また、打越中学校（1 Bブロック）では、漢字の読み書き能力を高める方策として、漢字を部首に分解し、会意文字から大まかな意味を、形声文字から大凡の読み方を言い当てる授業が行われており、専用のワークシートが用意されていた。順当な推測を働かせれば、大きな間違いをすることがないので、生徒も誤答を恐れなくなり、もっと自分から覚えていこうという姿勢を引き出すことができていた。

(2)討論活動で発言力を伸ばす方策として、七国中学校（3 Aブロック）では、「発言者」

「聞き手」「司会者」それぞれの討論ルールを明確に定めた、非常に円滑な討論が行われていた。不規則発言や否定的発言を規制し、肯定的な発言と敬語を用いた発言を貫くことで、誰もが結論を目指した活発な討論に加わることができていた。

作文力を伸ばす方策として、4 Aブロック合同研究（上柚木中・鑑水中・中山中・柚木中）では、説明的文章をもとに効率的な内容読解と要約文作成の指導が行われていた。説明的文章に特有の類似反復表現や、文頭表現・文末表現に着目させ、重要語句をつなぎ合わせて要約することや、ペアワークを通じて互いに教え合いながら作文力を伸ばすことに手応えを感じる生徒が増えていったという。

作文力に関しては、松が谷中学校（4 Bブロック）で「お礼の手紙」の書き方指導や、第二中学校（2 Aブロック）で条件作文の書き方指導が行われていた。いずれも構成を重視した作文力や、事実と意見を区別した作文力を伸ばそうとしていた。
(3)知識を覚える意欲を伸ばす方策として、前記打越中学校の部首別漢字指導法は、誤答が出にくい活動なので、思ったことを自由に言える雰囲気作りに寄与していた。

発言意欲を伸ばす方策に、小説読解における横山中学校（3 Bブロック）のワークシート活用指導があった。口述の苦手な生徒でもワークシートには書きやすく、ワークシートの記述を引き出して、全生徒の意見を表出させる活動が行われた。

古典への関心を深める方策として、第四中学校（1 Aブロック）ではペア音読や、台詞部分の話者を明記して進行を捉えやすくする工夫が効果を上げていた。生徒を作品世界に誘い込むための資料の提示や場面整理が重要であることを確認できた。

Ⅲ 講評とまとめ

全てのブロックからの研究発表のあとに、元中央大学文学部教授、笠井正信先生から講評をいただいた。テーマは「国語教室を『国語を学ぶのは楽しい』場所に」するためにどうするかという、国語科に共通の課題が取り上げられた、学ぶべき点の多い内容となった。

1 「勉強嫌い」「国語嫌い」からの脱却

国語を学ぶ利点を示し、「答え探し」でなく「謎解き」の面白さを感じ取らせる。

目的のない学習を排し、生徒が主体となって探求する学習を目指す。

2 個別最適な学びと協働的な学びの実現

一定の尺度に当てはめるのではなく、各自の目標を目指す「登山型学習観」への転換。

個別化ゆえの孤立化を避けるための、教師の教えと生徒同士の学び合いの両立。

3 得点分布の分析と、三観点に分けた学習要素の評価

特に、知的好奇心を伸ばすべく、話すプロセスでなく「考えるプロセス」重視へ。

研究発表や講評を通して、私たちの取り組むべき課題や方向性がより明確になった。国語力は全ての教科の基本となるだけに、これを伸ばすことが国語科教員の務めである。多くの現実課題に各ブロックが向き合い、有益なヒントをもたらした、実りある研究活動となった。

[社会部]

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

～「主体的に学習に取り組む態度」の育成～

八王子市立館小中学校 黒田 ひとみ

I はじめに

学習指導要領の改訂に伴い、「主体的に取り組む態度」について、昨年度までの指導と評価の一体化の研究から、授業を通して主体的に学習する態度の育成に視点を発展させ研修を進めた。

II 活動内容

1 夏季研修会 令和5年8月1日（火）

（1）参 加 36名

（2）会 場 いずみの森義務教育学校

（3）講 師 東京都教職員研修センター企画部企画課統括指導主事 中村伸也 先生

（4）内 容



子供たちにどういう姿に成長して欲しいかを念頭に置きながら、前半は ①社会科の魅力と役割の確認 ②目指す生徒像の確認 ③主体的な態度を育むための授業づくり（単元計画、味方・考え方を働かせる問いの精査）の確認についての講話、後半は2学期に行う研究授業の検討を行った。

2 一斉部会 令和5年11月8日（水）

（1）地理的分野

① 参 加 15名

② 会 場 八王子市立第五中学校

③ 授業者 西村 佳子 教諭（八王子市立第五中学校）

④ 講 師 八王子市教育委員会学校教育部教育指導課 指導主事 山本 徹 先生

⑤ 内 容 「世界の諸地域 南アメリカ州」

地理的事象に関わる諸資料から、南アメリカ州における地域的特色を読み取り、理解するとともに、これらと関連づけてアマゾンの開発による影響を、多面的・多角的に考察し、表現するという単元目標を設定した。まず、南アメリカの概要やアマゾンの森林保全、産業や日本とのかかわりについて学び、ブラジル政府、日本企業、先住民、環境保護団体の4つの立場で開発と環境保全の両立について考えた。単元最後の授業（研究授業）では、開発と環境保全のバランスについて自分の意見を述べ、班で話し合い、発表を行った。まとめとして、自分の考えと、単元の学習を通じて考えたことをミニレポートにまとめて提出した。

講師の山本指導主事からは、研究主題を中心に、これまでの「教員が何を教えるか」という観点から「生徒が何ができるようになるか」へ生徒が学習課題の見通しをもち、生徒自身の問題意識となる内容を設定する大切さをご指導いただいた。

(2) 歴史的分野

- ① 参 加 21名
- ② 会 場 八王子市立第六中学校
- ③ 授業者 森田 駿 主任教諭（八王子市立第六中学校）
- ④ 講 師 八王子市教育委員会学校教育課教育指導課 指導主事 中西祥雄 先生
- ⑤ 内 容 室町幕府の誕生から戦国時代の到来（第1学年）

本単元では武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解できるようにすること、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解できるようにすることをねらいとしている。

「戦国大名が地方を治める戦国時代が到来したのはなぜだろうか。」という単元を貫く問を設定し、単元を貫く問いを解決するために毎時間の学習課題を設定した。また本時では単元の中間のまとめとして、第1時～第3時（本時は第4時）の学習を整理することで、解決できる課題を設定した。研究協議では、単元を貫く問いや本時の学習課題は生徒の主体性を高めるものになっていたか、前時の学習を結び付ける本時の展開は、深い学びになっていたかという授業者の問題提起について意見交換した。

講師の中西指導主事からは「主体的に学習に取り組む態度」の育成をテーマに、新学習指導要領をもとに、その目的や内容、授業改善の方法について御指導いただいた。

(3) 公民的分野

- ① 参 加 22名
- ② 会 場 八王子市立いずみの森義務教育学校
- ③ 授業者 倉田 修 主幹教諭（八王子市立いずみの森義務教育学校）
- ④ 講 師 八王子市教育委員会学校教育課教育指導課 指導主事 山崎晃司 先生
- ⑤ 内 容 「個人を尊重する日本国憲法」

本単元では対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、公民的資質・能力を身に付けることを目標としている。単元を貫く問いを「日本国憲法ではどのようなことが大切にされているのか」と設定し、基本的人権と日本国憲法の基本的原則について具体的事例をもとに毎時間設定する学習課題に取り組ませた。本時では「人権の問題について自分はどうか考え行動すべきか」という学習課題のもと、「あなたが八王子市の職員だったらジェンダー平等を実現するためにどのようなプランを立てるか」について各自で調べ、グループで話し合って発表した。

講師の山崎指導主事からは、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を中心に、社会科における教材開発や授業づくりの視点や、指導と評価の一体化について御指導いただいた。

[数学部]

「数学的活動を重視した学習指導」

八王子市立加住小中学校 泉澤 太

I はじめに

今年度は、数学部会では「数学的活動を重視した学習指導」を大きなテーマとして取り組みました。一斉部会（11月9日に3会場）と研修会を実施しました。

11月の一斉部会では、3会場それぞれで、当日の研究授業の内容に関連すること・ICT機器の活用・学力向上・主体的な評価について協議会を行い、3人の講師の方に講演をしていただきました。今年度の活動を通して、各学校で授業改善がなされていくことを期待しています。

新型コロナウイルスが落ち着いてくればではありますが、来年度は研修会の数を増やして、各先生方から出された課題や要望についても研修を深められればと考えています。

II 活動報告

研究授業・研修会

1 一斉部会〔令和4年11月9日（水）〕

今年度も、以下の3つの中学校を会場校とし、研究授業を実施しました。

- | | | |
|---------|-------------------------------|-------------|
| ◇長房中学校 | 授業者（敬称略） | 高田 文吾・伊藤 恭仁 |
| （参加32名） | 内容；三平方の定理、講師；由井中学校校長 秋山 真一 先生 | |
| ◇加住小中学校 | 授業者（敬称略） | 西形 英士 |
| （参加32名） | 内容；図形の調べ方、講師；加住小中学校校長 泉澤 太 先生 | |
| ◇由木中学校 | 授業者（敬称略） | 安藤 晃之輔 |
| （参加47名） | 内容；変化と対応、講師；由木中学校校長 川島 隆 先生 | |

◎研究授業について

- ・三平方の定理を2年生でやったのは？…2年生でもできる内容だから選んだ。本来は3年生で実施する内容なので今日だけで完結し、3年生になって1年前のことを思い出しながら取り組む。中教研ではあまり取り扱われることもなかったのだ。
- ・教員が教卓に座ったままタブレットを操作（生徒の解答の丸付けなど）していたが、慣れていると持ち歩きながら指導をしていた。
- ・ジャムボードで共有しながらの作業であったが、隣のスライドを見ることができたり、図形を動かすことができなかつたりという課題もあった。
- ・実際のデータを使用していたことで、きれいな数値とは異なる良さがあった。
- ・最初から比例として解いていたが、初めに比例であることを気づかせたかった。

◎協議会より

【ICT機器（Chromebook など）の活用について】

- ・以前は紙を切り貼りして授業を行っていたが、アナログとデジタルそれぞれの長所

を活用する場面に応じて使い分けると良いのではないかな。

- ・画像を動かすことができたり、この単元以外では GeoGebra などを活用して、具体的にグラフの変化を見せるなど有効な活用方法を考えていきたい。

【学力向上について】

- ・放課後補習教室や朝学習、質問教室や長期休暇中の補習教室などを実施する。
- ・授業の最初に計算練習や復習などに時間を割いている学校が多い。ミライシードでの復習を実施している学校もある。

【主体的な評価について】

- ・授業振り返りの内容での評価・シートの活用、テストのやり直しレポート、既習事項を応用して問題を作る、定期考査をなくして単元テストを活用するなど。また、同じテストを実施して、その伸びやキープ状態での評価ということもあげられた。
- ・週3～4時間という決められた時間の中で、主体的な学びができる時間を、どのように作っていくかを考えないといけない。単元ごとに区切った時に、1単元のうち1回は時間を作る。そのツールとしてタブレットの有効な活用方法について考えられるとよい。八王子市で教材等の共有ができればよい。

2 研修会

日 時 令和5年1月30日（月） 14：00～16：00

場 所 八王子市立横山中学校（参加29名）

講 師 都留文科大学 教養学部 学校教育学科 新井 仁 准教授

内 容 「問題解決学習における数学的活動と授業づくり」

- ・数学的活動が有意義なものとなるために、解決と同時に新たな問題を捉えられる教材・数時間に渡る追及を可能にする息の長い教材を念頭にカリキュラムを考えたい。
- ・ICTは、学びの本質ではない処理に生じるストレスを排除し、本来大事にしたい学習に時間をかけることができる。また、数学の有用性をクローズアップし、生きた数学、使える数学を学ぶことに重点をおくことができる。
- ・解き方が予め定まった問題を効果的に解ける力を育むだけでは不十分である。これからは、社会的・職業的に自立した人間として、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

Ⅲ 今年度を振り返って

授業者の先生方及び会場準備や協議会進行の協力のおかげで、有意義な研修会となりました。また、GIGAスクール構想について詳しく説明いただきました。一斉部会及び研修会では、部員の皆さんから多くの意見を伺うことができました。

今年度各学校で取り組んできたこと及び研修会等で得た情報を参考に、「数学的活動を重視した学習指導」をいかに実施していくのか、各学校で話し合いを進めていくことが大切であると思います。

来年度もお互いに日々研鑽を積み、有意義な研修会を目指したいと考えています。

[理科部]

中教研理科部会活動報告

八王子市立みなみ野小中学校 校長 白石 貴志
八王子市立第六中学校 主幹教諭 高橋 一浩
八王子市立ひよどり山中学校 教諭 藤山 春菜

I 第1回理科部会（教科主任会）

- 1 日時 令和5年4月12日（水） 午後3時から午後4時30分まで
- 2 会場 八王子市立みなみ野中学校理科室
- 3 内容 今年度の活動について 八王子市立みなみ野中学校 校長 白石 貴志 先生
幹事・会計担当について、研修テーマ・計画の確認
(1)研修テーマ「全国中学校理科教育研究会東京大会参加から考えるこれからの理科教育」原案→設定
(2)一斉部会にて授業提案・授業研究会の計画
(3)年間研修計画立案
(4)予算会計の検討

II 第2回理科部会（一斉部会）『第70回全国中学校理科教育研究会東京大会』参加

- 1 日時 令和5年8月6日（日）、7日（月）、8日（火）
- 2 会場 東京ビッグサイト他
- 3 内容

- (1)『授業実践発表 第一分科会（教育課程）』に参加して

八王子市立第六中学校 高橋 一浩

第一分科会（教育課程）「主題：科学的に探究するために必要な資質・能力を育む教育課程」では学習指導の実践発表が行われました。様々な工夫が見受けられ、参考となる事例が多く良い機会となりました。主な発表内容は「物質の分類とごみの分別を結び付けた学習」「磐梯山を活用した火山に関する学習」「4QS 仮説設定シートを活用した学習」「国立科学博物館を活用したワークシート開発について」「理科とものづくりについて電池を例にした学習」でした。

- (2)『文部科学省講演 資質・能力の育成に向けた授業づくり』に参加して

八王子市立ひよどり山中学校 藤山 春菜

文部科学省講演では、課題の把握→探究→解決という一連の探究の過程をふまえた授業改善について、①本単元の授業の本質、②身に付けさせたい能力、③どのように評価するか、④どの探究の過程を重視するか、⑤環境づくりという5つの視点で授業をデザインすることを意識すると良いとお話があり、事象を提示する際に、子供たちの考えとあえて「ズレ」や「ギャップ」を生じさせ、探究活動に深みを持たせると良いと学びました。

(3)『記念講演・閉会式』

八王子市立みなみ野小中学校 校長 白石 貴志 先生

最終日の8月8日(火)、東京ビックサイト会議棟7階国際会議場にて開催された。閉会式前に、次の5点が決議された。①科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を重視した教育課程を追究する。②主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善と指導と評価の一体化を追究する。③理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって科学的に探究する観察・実験の充実を目指す。

④自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていくため、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるよう必要な力を育む環境教育を追究する。⑤全国の研究団体や行政機関等との連携を図り、新しい理科の指導方法を研究するとともに、理科教育にかかわる諸条件の整備と充実を目指す。

(4)第70回全国中学校理科教育研究会東京大会概要と参加総括

3日間にわたり、次のような内容で本大会が開催された。

第1日 令和5年8月6日(日) 若手教員による実践発表と交流会、役員会、理事会、
ブロック会、レセプション

第2日 令和5年8月7日(月) 開会式、文科省講演、分科会

第3日 令和5年8月8日(火) 記念講演、閉会式、エクスカージョン

※ 記念講演では、東京大学・大学院 理学系研究科 田近英一 教授を講師として招聘し、「地球環境の変遷から、宇宙における第2の地球の条件を探る。」という演題で貴重な御講義を受けることができた。

Ⅲ 第15回 科学コンクール

市立中学校全校を対象とし、主に夏季休業中の自由研究として作品を募集し実施した。

1 選考方法

- (1) 各校から1～3作品を選出。(一次審査)
- (2) 各ブロックで一次審査通過作品から5作品を選出。(二次審査)
- (3) 各ブロックの二次審査を通過した合計20作品から最優秀賞・優秀賞・奨励賞を含む7作品を選出。(最終審査)

2 発表、表彰式

(1) 日時・場所：12月2日(土) 午後1時30分から午後4時まで 市教育センター

(2) 参加者：市長、教育長、指導担当部長、教育委員会関係の方

P T A会長、八王子市P T A関係の方 オリンパス(株)、SSISS関係の方

(3) 内容：P T Aによる進行

- ① 最優秀賞・優秀賞・奨励賞受賞者によるプレゼンテーション
- ② 表彰式では、最優秀賞・優秀賞・奨励賞を表彰した。

今年度は、市内中学校より計94作品(計96人の参加)の応募があった中からの7作品となった。

[音楽部]

「主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業をめざして

～協働的な学習による授業づくり～」

1 研修会【授業における評価・評定について】 八王子市立中山中学校 岡山 由紀子

7月6日（木）八王子市立いずみの森義務教育学校にて、杉並区立杉森中学校指導教諭、小作典子先生をお招きして、「音楽科の授業における評価の実際」という主題で研修を行った。3観点評価となって2年が経過し、実際の授業のなかで生徒の活動をどのように評価に反映させていくか等、各学校で試行錯誤し、さまざまな取り組みをしているなかでの本研修となった。

小作先生には、学習指導要領改訂時のキーワードや表現領域及び鑑賞領域の学習と3観点との関連付け、実際の授業での活動との結びつきについて、具体的な事例をもとに数多くご提示いただいた。主体的に学習に取り組む態度を養うための振り返りカードの活用例や、歌唱活動における表現の創意工夫をまとめるワークシートの活用例は、生徒の思考の流れを読む工夫がふんだんに施されており、個人内評価の見とり方や思考・判断・表現の評価について改めて考えきっかけとなった。また、鑑賞のワークシートでは、曲想と音楽の構造を単に言葉や文章でまとめるだけでなく、視覚的に捉え表現できるような工夫もあった。

本研修では、学習指導要領の分析にとどまらず、評価の演習を通して、創作活動において生徒が実際にどのような作品をつくるかといった例をふまえて評価を検討した。歌唱活動で楽譜に表現の工夫を書き込ませる活動を通じ、生徒が自身の取り組みの成果を一目でとらえられるようなワークシートの評価、曲の構造を捉えやすくするワークシートの工夫と、それらと結びつけた批評文を書かせる活動の評価を教員が自ら実際に行い、実践に則した非常に実践的な研修となった。

2 実技研修会【Webアプリを使った創作】 八王子市立ひよどり山中学校 門倉 美和

9月7日（木）教育センターにて、東京藝術大学特任助教、杉山陽介先生をお招きして、DTMの基礎知識、音楽Webアプリケーション（カトカトーン）を使っでの創作の研修を行った。昨年度も杉山先生に「デジタル教科書の効果的な活用」についての講義をいただき、2年続けて学習用デジタルコンテンツを利用しての研修となった。今年度はアプリの基本操作を学び、実際に創作活動を体験したことで、より実践的な内容となり、操作方法の理解が深まった。また、創作における評価についても助言をいただき、生徒が創作していく過程を評価することが重要であることや、そのポイントについて学ぶことができた。最後に、領域を創作に限定せず、器楽や歌唱、鑑賞など、さまざまな授業での利用方法を提示していただいたことで、私たち自身が創意工夫をすることで学びを続け、深めていく必要があると再認識できた研修となった。

3 研究授業【鑑賞】

八王子市立甲ノ原中学校 永田 小夜子

11月8日（水）八王子市立いずみの森義務教育学校にて、木下知美主任教諭による「世界のさまざまな楽器の音楽を味わおう」（第3学年）を題材に研究授業を行った。

2週間前には指導案検討会を担当ブロックで行い、生徒にどのような楽器を使ってどのような力を身に付けさせたいのか、ICTの活用はどのように取り入れるかなどを話し合った。

授業では、実際に木下主任教諭がアフリカのジンバブエの衣装を身に付け、現地の楽器である「ムビラ」を演奏し効果的な導入を行った。パワーポイントを使用した整理された指示、実際に音源を聴取したり、実物の楽器を提示したりすることで生徒の興味関心を引き出す工夫、個人⇒グループ⇒全体で共有できるように配置されたワークシート等、さまざまな工夫がなされた授業は、あっという間の50分間であった。グループワークでは、木下主任教諭の生徒た



ちの考えを引き出す発問のサポートも相まって、活発な意見交換や楽器の音色、特徴を積極的に発言している生徒の姿が多くみられた。3年間で習得した知識の上に積み重ねられた、主体的で協働的な学びのある授業であった。その後の協議会では、授業への感想、ICT活用に関することを中心に意見交換を行った。授業での生演奏、効果的なパワーポイント、ワークシートの工夫、グループワークでの深め方など、音楽科の授業における鑑賞の指導法を高める機会となった。

指導・講評には、玉川大学非常勤講師、小林史子氏をお招きし、授業に関すること、学習指導要領、鑑賞における主体的・協働的な学び、世界の諸民族の音楽の扱い方等、授業づくりに役立つ内容の講話をいただいた。具体例通して「ヨーデル」の歌唱を取り入れた授業を題材に、実演を交えてご紹介いただき、大変有意義な研修となった。

4 実技研修会【歌唱】

八王子市立みなみ野中学校 山城 拓郎

2月1日（木）八王子市立いずみの森義務教育学校にて、作曲家、田中達也氏をお招きして、「第89回NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲『Replay』を題材とした合唱指導」の研修を行った。実際に合唱を行うことで、発声法、パート練習の効率化等、実際の授業で活用できる多くの学びを得ることができた。また、編曲者自らの指導ということもあり、技能指導だけではなく、楽曲や詞を理解した先にある「音楽表現の工夫」に深くアプローチできた研修となった。

5. まとめ

八王子市立みなみ野中学校 山城 拓郎

限られた時数のなかで、さまざまな領域を網羅し生徒に学びを深めるには、生徒の心を掴む教材や指導法の選定、適切な評価方法の検討、それらに基づく授業改善が必須である。今後も各学校の実践を交流、相互検討し、より良い授業実践をめざし、教員自身の学びを高めていく。

[美術部]

八王子市立小中学校合同作品展「第19回おおるり展」報告

八王子市立浅川中学校 小山内 繁

I はじめに

今年度で小中合同による作品展「おおるり展」は19回目を迎えることができた。例年通りエスフォルタアリーナ八王子で行われ各校の美術教育の取り組みが発表されていた。

「おおるり展」は各学校の美術教育による成果発表の場であり、また、教員に取っては貴重な教員同士の交流の機会でもある。それぞれに多種多様な教材研究が進められており、多彩な成果が見受けられた。今後の題材研究のヒントを見つける教員も多く、これからの美術教育の充実に寄与できるだろう。さらに「おおるり展」が子ども達の表現力や情操の発達に役立ち、展示の機会を通した目標の設定や達成感を得る体験になれば幸いである。

II 「おおるり展について」

- 1 主催 八王子市教育委員会・八王子市立公立小学校長会・八王子市立中学校長会
- 2 主管 八王子市立小学校教育研究会 書写部・図工部・家庭部
八王子市立中学校教育研究協議会 美術部
- 3 後援 八王子市立小学校PTA連合会・八王子市立中学校PTA連合会
- 4 期日 令和6年1月22日（木）～1月22日（月）
午前10時～午後7時
- 5 会場 エスフォルタアリーナ八王子
多目的室及び会議室
（八王子市狭間1453-1）
- 6 作品搬入 令和6年1月17日（水）
- 7 作品搬出 令和6年1月22日（月）



III 内容・運営

- 1 作品収集・返却
 - ① 収集日時 令和6年1月16日（火）9時～16時30分
 - ② 収集方法 地域ごとに分けた7コースをトラックで回収する。
 - ③ 返却日時 令和6年1月23日（火）9時～16時30分



2 保護者案内通知

書写部が作成し、12月15日付けで
各家庭、地域などに配布

3 会場案内図（12,000 枚）

図工部が作成し、設営日に
持ち込み用意

4 ポスター（A2 カラー520 枚）

美術部が作成し、指導課が発注
する。12月上旬に一斉配布する。

5 アンケート（12,000 枚）

家庭科部が作成し、指導課が印刷し、設営日に
持ち込む。

6 開催期間中の従事体制

①教職員各部で時間区分、担当教員を設定し、作品の破損等の管理をする

②指導課及び市教委応援職員報道関係・PTA・来場者の対応

7 受付

小学校PTA連合会、中学校PTA連合会が
担当

① 受付簿への記帳依頼

② カウンターによる来場者数確認

③ 会場案内図及びアンケートの配布



IV まとめ

「おおり展」の開催を通して、期間中、会場にて、多くの保護者、市民の皆さんにご高覧いただいた。子どもや孫の作品を見に来た保護者で会場は賑わい、中学生の作品を観て感心している方も多く見られた。授業内にとどまらず広く見ていただくことは「おおり展」開催の意義を感じる事の出来る良い機会である。また昨年度より東京都公立学校美術展覧会（都展）も再開され、より美術教育の向上につながると感じる。

展覧会を開催することによって、生徒の達成感に付与することが出来ることに加え、教員にとっては今後の授業づくりの励みとなった。題材研究や展示方法のより一層の創意工夫が求められ、来年度の展望を再考し、より良い美術教育に努める次第である。

[保健体育部]

学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫

八王子市浅川中学校 大野 裕太

I はじめに

保健体育部会では「学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫」をテーマとして、指導の工夫や男女共習、豊かなスポーツライフの実現、共生体育の実現に向けての研修を実施した。

II 活動報告

1 実技講習会

・日 時 令和 5年 9月 14日（木）午後2時30分～午後4時30分

・場 所 八王子市立第二中学校 体育館

・内 容 ベースボール型球技の基礎・基本

・講 師 「ベースボール5について」

桜美林大学 准教授 若松 健太 先生

「投げる、捕る、打つの基本について」

ジャイアンツアカデミー

倉俣 徹 先生、成瀬 功亮 先生、北之園 隆生 先生

・参加者 保健体育科教員 32名



2 一斉部会（研究授業、研究協議会）

・日 時 令和 5年 11月 8日（水）午後1時30分～午後4時

・場 所 八王子市立館小中学校 体育館

・授業者 八王子市立館小中学校 教諭 國安 瞳

・講 師 日本中学校体育連盟 参与 菊山 直幸 先生

（学校体育・スポーツ教育指導法開発研究会 理事長）

・参加者 保健体育科教員 65名



（1）研究授業「保健 傷害の防止」 第2学年 男女共習

本授業は、2年生18名で行った。保健分野の応急手当（包帯法）を実習するため、男女別の班で実施した。包帯法の授業は3時間目だったので、実習までの流れもスムーズであった。

次時で包帯法の実技テストを行うということもあり、導入では包帯法のポイントを、ホワイトボードを使用しながら視覚的にも分かりやすく解説していた。



展開においては、班ごと（2～3名）に実技テストのポイントを確認しながら練習を行っていた。実際に、実技テストの時間と同様の2分間で練習を行い、それを班内でローテーションしていた。T1 授業者、T2 教員、特別支援のサポート教員が巡回し、適宜助言やサポートを行いながら実習をすすめていた。班内では、互いにアドバイスを交わしながら学び合っている姿が印

象的であった。評価者をローテーションし、ワークシートを記入させながら「思考・判断・表現」の評価も行っていた。班によっては、実際に包帯を巻いている姿をクロームブックで撮影し、振り返りに使用するなど、ICTの効果的な活用も見られた。



展開の後半では、実技テストで行う包帯法にプラスして、傷病者が座位や横になっている状態での処置も行った。傷病者役が処置者に対して「具合が悪いので体勢を変えさせてください」「包帯がきつくて痛いです」など、本番を想定したやり取りが交わされていた。

（２）研究協議会

授業者からは、包帯法の授業で三角巾を使用した意義、授業者が勤務する学校では特別な支援を要する生徒が多数いることから様々な生徒の実態に合わせた授業展開の工夫などについて説明された。参加者によるグループディスカッションでは、保健分野における授業展開に関する情報交換や各学校に持ち帰って実践できる内容などについての協議が活発に行われた。中でも、医薬品の服用をオレンジジュースも用いて、実際に混ぜてみるという実演を行う学校もあり、とても興味のわく内容であった。



（３）指導・講評及び講演

日本中学校体育連盟 参与 菊山 直幸 先生を講師としてお招きし、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫、保健体育科の目標である生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために必要なこと、生徒が学び合う授業づくりなどについてご講演いただいた。生徒にとっていい授業とは何か、それは学習の楽しみや喜びを感じさせること。いい授業の成立条件は、お互いの信頼関係のもと、タイムリーな資料の作成、リズム感、専門家としての知識をもつことが大切であるということ。また、生徒が学び合うことこそが生徒が主体的・意欲的になる一番のポイントであるということをご指導いただいた。最後には、参加した教員の「心の健康面」まで目を向けてくださり、とても有意義な講演会となった。



Ⅲ まとめ

今年度は、「保健 傷害の防止」の研究授業を通して、菊山 直幸 先生から学習指導要領の趣旨を踏まえて、保健体育科の単元計画の工夫、学び合いの授業づくりのポイント、評価方法の工夫などについて多くのことをご指導いただいた。また、実技講習会では、ベースボール型球技の基礎・基本について学び、改めて基本となる動きの指導方法や生徒が意欲的に取り組めるようにするためのルールづくりについて考えさせられた。生徒が楽しむためには教員も楽しまないといけないと強く感じた。今後の授業改善につなげていきたい。

[技術部]

技術科における個別最適な学びの提案と実践

八王子市立由井中学校 斉藤 康太

I はじめに

2030年の社会と子供たちの未来を見据え、学習指導要領が平成29年3月に改定され、令和3年4月から全面実施となった。学習指導要領の公示以降、学校教育の情報化が急速に進展している。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会では、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」が取りまとめられた。今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められている。また、その際にはカリキュラム・マネジメントの取組を一層進めることが重要とされている。

現状の技術科教育では、作業方法を説明する時期は、教員が生徒全体の進み具合を把握し、進み具合に合わせて一斉指導を行うことが主流である。実際に作業を見せながら説明ができる。教員が模範となる作業を見せることで、生徒に作業のイメージをもたせることができるなど有効な方法である。一方で、その日に休んでしまった生徒は聞くことができない。40人近くに一斉に見せるため、細かいところまで見ることはできない生徒がいる。今自分が行っている作業とは違うところの説明を聞くことになるなど、課題もあると考えている。

そこで技術部会では、指導方法も検討をしながら、指導と評価を一体化させるために、学習評価の改善について研修を行った。研修の形態として、研究授業や講師を招聘して研修会を開催した。

II 研修の記録

1 研究授業

- (1) 日時 令和5年11月8日(水) 13:30～16:00
- (2) 場所 八王子市立由井中学校
- (3) 研修タイトル「評価方法(評価基準)の共有及び討議」
- (4) 内容

〔1〕研究授業 A領域「材料と加工の技術による問題の解決」

- ① 授業観察
- ② 使用教材について
- ③ 授業内での評価の見取り方について
- ④ 生徒への個別対応について
- ⑤ 質疑応答

2 技術部会

- (1) 日時 令和6年1月23日(火) 14:00～16:00
- (2) 場所 八王子市立第五中学校
- (3) 研修タイトル「プログラミング教材の開発」
- (4) 講師 全日本中学校技術・家庭科研究会顧問 田極 政一郎 先生
- (5) 内容

- 〔1〕 教材研究 「教材の活用事例」

- ①教材の特徴とその活用事例について
- ②教材の活用事例について
- ③質疑応答

Ⅲ まとめと課題

今年度の研修を通して、個別最適な学びにおける評価方法について検討するとともに、授業改善のポイントを押さえることができた。また、具体的に学習評価や指導計画の見直しを行うことができた。

技術科の教員は各校1名の配置のため、情報共有を行う機会がなかなかない。そこで、研修会の方法も従来の授業を観察し、その授業について話し合うのではなく、授業を観察しながら、評価できそうな観点とその評価方法をそれぞれの教員に考えてもらい、協議会で評価の観点と方法を共有することにした。その観점에서評価する際にはどのようなことを意識すべきかなどの意見もでて、互いの指導方法を見直す良いきっかけとなった。今後、各教員が学習評価の研究を進め、取り組みを集約・蓄積していくことによって、さらなる授業改善が期待される。

また、教材の活用事例として、プログラミング教材の開発・検討も行った。講師を招いて、ご指導をいただきながら、プログラミング教材の一例を実体験しながら学ぶことができた。本校での実践を振り返り、来年度以降の指導計画をよりよくするいい研修となった。

本年度の成果として、八王子市全校体制で、授業と評価の一体化に向けた考え方を共有することができたのではないかと考える。

今後の課題として、技術家庭科(技術分野)では取り扱うべき内容が多様化しているため、カリキュラム・マネジメントを充実させ、効率的な授業展開を実現していく必要がある。また、カリキュラム・マネジメントを充実させるためには、各教科間での関連性や、実施時期を考慮し、技術科として各学年で取り扱うべき内容や、3年間を見通した指導計画を大きく見直す必要があると考えられる。

最後に本研修会のために、ご多忙の中、また遠方よりお越しいただき丁寧にわかりやすく説明していただいた、全日本中学校技術・家庭科研究会顧問、田極政一郎先生に感謝します。

[家庭科部]

「新学習指導要領の趣旨を生かした授業と評価の工夫」

八王子市立打越中学校 主幹教諭 中原 貴子

I はじめに

今年度も昨年度に引き続き評価・評定についての研修を深めた。特に、消費生活領域での消費者教育副読本『磨け！消費者力』の活用を軸として、授業と評価の一体化を目指した。研究授業を3回行い、講師の先生から講義をしていただくことで、実践的な視点を深め、学校間での情報共有の機会を多くもつことができ、有意義な研修となった。

II 研修のテーマ

「授業と評価の一体化について」

III 研修の成果

1 施設見学

館クリーンセンターの見学

令和5年 5月 25日(木)

施設見学を行い、熊沢所長より「安全・安定的な廃棄物処理と高効率な資源巡回システムで人と自然が響きあう、持続可能な循環型都市八王子の実現」についてお話をいただいた。

2 研修会

令和 5年 8月 3日(木)

(1) 消費者トラブルと消費者教育の推進について

講師 消費者庁 消費者教育推進課 中川 壮一氏

消費者問題は多様化、低年齢化している。18歳成人に向け、中学生のうちから指導を積み重ね、被害を防ぐ必要がある。最新のトラブル例と対策を知り、生徒の被害を防ぐよう努める。

(2) 認知症サポーター研修

講師 高齢者安心相談センター長沼 埴 春夫氏 今里 和子氏

認知症が社会問題になっている今、地域で互いを支え合うため、認知症について理解を深める必要があることを学んだ。1人で抱え込まず、相談できる機関を知っておくことが重要である。

3 研究授業(一斉部会)

令和5年 11月 8日(水)

C 消費生活・環境

題材名 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響…「磨け！消費者力」より

授業者 梶田中学校 小野 有紀子 主任教諭

講師 東京家政学院大学 上村 協子 教授

(授業者から)

この授業は『八王子の街がきれいな(ごみが少ない)理由～エシカル消費とパフォーマンス課題～』と銘打ち、本校の研究研修委員会とのコラボレーション企画として行った。

消費活動(購入、使用、廃棄)について考えさせながら、消費者市民社会を担うわが街八王子の一員として自覚をもたせ、エシカル消費を推進させる一助となることをねらいとした。廊下掲示の他のクラスの掲示物を見たり、作ったぬいぐるみのリサイクル綿について考えたり、クイズをつくったりしたことで、OODA ループについても言及でき、生徒たちが積極的に行動して動きのある授業となったことが大きな収穫である。

4 金融教育指導に向けての研修

令和5年 12月 20日(水)

C 消費生活・環境

研修テーマ 消費者教育副読本「磨け！消費者力」の活用を視野に金融教育を学ぶ

講師 FL パートナース 筒井 修平 氏

「お金」に関する考え方について、将来のためにただ貯蓄するのではなく、それを運用しながら貯蓄していくなど、金融に関する幅広い知識をもつことが重要であるとのお話をいただいた。

5 研究授業

令和6年 1月 11日(水)

C 消費生活・環境

題材名 『私たちの消費生活』消費者としての自覚 ～磨け！消費者力を使って～

授業者 七国中学校 鈴木 美紀 教諭

講師 東京家政学院大学 上村 協子 教授

(授業者から)

上村教授のご協力を得て、八王子市立中学校の教員が中心となって作成した『磨け！消費者力』

を活用して授業を行った。導入部分でこの資料の消費行動チェックを行うことにより、自分の消費行動を振り返らせることをねらいとした。また、これから学習していく内容について、消費行動は「買い物」だけではなく、さまざまな行動が社会生活に大きくかかわっていることをイメージさせた。自分たちの身近な小遣い帳やレシートを取り上げることにより、計画的な行動やレシートの必要性に気づき、契約がどのようなものなのかを考えることを通して、未成年者の契約について理解させることができた。

6 研究授業(横山中学校にて、令和6年 3月 7日(木)に実施予定)

7 東京都公立学校美術展覧会(生徒作品の搬入、見学、搬出)

於：東京都美術館

令和6年 2月 14日(水) ～ 18日(日)

市内中学校から作品を募り、1月29日(月)に今年度の三役を中心に飾り付け、展示準備を、みなみ野中学校で行い、2月13日(火)に会場にて搬入・展示作業を行った。搬入・搬出などの準備を行う中で、八王子市内だけでなく東京都内各校の作品や取組を見学し、次年度以降の活動に役立てることができた。また、限られた展示場所の中で、自分の作品が選ばれ、展示された生徒にとっては、大変貴重な体験となり、今後の作品制作意欲はさらに増すと考えられる。

次年度以降も家庭科部会の取り組みの一つとして、技術科とも連携をとりながら、よりよい作品制作指導にあたる所存である。

IV まとめ

今年度の家庭科部会では、内容D 消費生活・環境の研修を軸として、研究授業を数多く行い、講義・指導を受けることで、新学習指導要領の主旨を生かした授業・評価の工夫について、学びを深めることができた。また、学習用端末を活用した授業作りの視点から、消費者教育副読本『磨け！消費者力』のデジタル化や活用方法について議論をすることができた。

今後も、よりよい指導の工夫を目指し、八王子市内の家庭科教員が一丸となり、情報共有と研鑽に取り組むことが必要不可欠である。今年度の取組全体を通して、今後の活動への一助となった。

[英語部]

研究主題：学習指導要領に対応した授業作り 及び学習評価

八王子市立横山中学校 林田 重敏

I 研究主題設定の理由

全中学校で新学習指導要領が実施され、「学びに向かう力・人間性」・「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」という3つの力の育成が重要になった。

外国語においては、4領域から5領域にかわり、「話すこと」が「話すこと（やり取り）」と「話すこと（発表）」に分けられたことと、4技能を統合的に活用するコミュニケーション能力の育成を図ることが求められることとなった。そのため、英語科教師は、その育成に向けて授業改善に取り組んだ。また、4観点から3観点に移行するに当たり、各観点の評価材料や評価方法の再考・改善に取り組むこととなった。

今年度、本会は、「指導と評価の一体化を意識した授業改善」をテーマに取り上げ、生徒の英語力の向上を目指す。

また、2年次・3年次を対象とした研修も夏季休業中に設定した。11月の一斉部会では、4つのブロックがそれぞれ授業研究を行い、各授業者が研究を重ねてきた効果的な指導方法についての研究授業・協議会や講師によるスキルアップ研修等を行った。教員同士が共有し学び合うことで、各教員のスキルアップにつながる。各校でのさまざまな取組を学び合い実践し、生徒たちのレベルアップにつなげられるよう英語部全体で授業力の向上を図ることを目指す。

II 研究の概要

1 2・3年次研修・協議会

令和5年8月23日（水）

講義・演習

テーマ「授業づくりの原点」 講師 順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生

2 一斉部会

令和5年11月8日（水）

本部会の部員に加え、本市に勤務する非常勤教員を含め百余名に広く参加を呼びかけた。既設の四つのブロックに分かれ、それぞれに研究授業・研究協議会を行った。授業者と講師、会場は次の通りである。

(1) 第1ブロック

授業者 横山 達也 教諭 （第六中学校）

講師 東京女子大学 教授 本多 敏幸 先生

(2) 第2ブロック

授業者 鈴木 奈々子 教諭 （第二中学校）

講師 順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生

(3) 第3ブロック

授業者 川邊 耕太 教諭 (桐田中学校)

講師 明星大学 教授 内田 富男 先生

(4) 第4ブロック

授業者 西村 皐月 教諭 (中山中学校)

講師 玉川大学 教授 工藤 洋路 先生

Ⅲ まとめ

8月に行った2・3年次教員を対象とした研修では、かつて八王子市立中学校長であった順天堂大学の佐藤ひろみ先生を講師として招聘し、英語の授業の基礎・基本から細かく、具体的にお話をいただき、参加者の中で実践的な演習を多く設けることで若手教員のみならず、ベテランの先生方も熱心に参加し、自分の授業の手助けとなる時間を過ごすことができた。若手の授業力向上について今後も継続して支援を続けたい。

一斉部会では、各ブロックで研究授業を行った。各授業者の授業を、今年度の研究主題に「指導と評価の一体化を意識した授業改善」に即して参観することにより、さまざまな効果的な指導法や評価とのつながりを学ぶことができた。また、今年度の講師は、普段からテストづくりなど評価にかかわる研究を行われている著名な先生をお呼びした。そのため、基本的な授業の流れから授業アイデア、指導と評価を一体化させるための具体的な方法など、日々の実践に即した具体的なアドバイスをいただくことで、授業のねらいに即した指導方法と評価方法について再考することができた。

久しぶりに各ブロックの先生方が集まることで、学校間の連携の重要性を再確認する機会となった。

また、どの授業もねらいや計画が明確であり、アウトプットができる場面を多く入れ、生徒が生き生きと活動していた。

終わりに、快く授業を公開していただいた先生方、丁寧にご指導いただいた講師の先生方に深く感謝を申し上げます。有難うございました。

[養護部]

研究テーマ「養護教諭の職務に関する活動の実態と課題について」

八王子市立川口中学校 山口 千里

I はじめに

中教審答申（H20.1.17）では、養護教諭の職務について“学校保健活動推進の中核的役割を担う”と明記された。これを受け、「養護教諭の職務に関する実態と課題について」をテーマに掲げ、ここ数年研究をすすめてきた。

II 研究方法

市内中学校を4つのブロックに分け「養護教諭の職務」として例示された7項目（救急処置・健康診断・健康相談活動・健康教育・保健管理・保健室経営・保健組織活動）の中から、職務の必要性や課題となっている項目を選び、各ブロックのサブテーマを設定した。

III 各ブロックのテーマ（サブテーマ）および研究内容

<1ブロック>サブテーマ 『コロナ禍で養護教諭が感じる生徒の心身の変化』

令和元年からの3年以上にもわたる新型コロナウイルス感染症対策が、生徒の心身の発育発達にどのような影響を与えているのか。養護教諭が日々の保健室で感じている気づきを糸口に、生徒理解を深め、今後の保健指導・保健室経営に役立てたいと考え、研究を進めてきた。

研究2年目となる今年度は、メンタルヘルス・自律神経を主訴とする来室や別室登校にも焦点をあてた。本研究から、市内中学校においては、生徒の居場所やつながりを確保する視点を大切にしながら保健室や別室での教育活動に取り組んでおり、養護教諭がその中心を担うことが多いことが見えてきた。

養護教諭が一人で抱え込まずに、他生徒への対応や職務を行いながら当該生徒へ安定したかわりをしていくためには、組織的な対応が不可欠であり、企画（運営）委員会や校内委員会などで支援の方向性や課題のゴールを共有し、役割分担を明確にすることが大切だと確認をした。また、他校の事例や取り組みを参考にし、実践可能事項を検討することが大切であり、養護教諭同士のネットワークの重要性を再認識した。

<2ブロック> サブテーマ 『けがの予防』

養護教諭の職務の中で欠かす事の出来ない応急処置について、各校の実態や実践を共有し、今後のより良い保健活動を目指し、本テーマを設定した。

今年度は、けがに関するアンケートを各校1、2年生対象に実施した。結果に基づき来年度は各校でけが予防に関する実践を行い、事後アンケートを通して生徒意識の変容を考察する予定である。

アンケート結果においては、「けがの原因は天気や環境に関係なく自分にあると思う」と回答する生徒が大多数だった。その反面、日常やスポーツ中のけがについては注意をしても防止できない、と考える生徒が多かった。そのため、自分自身の取り組みや意識で予防できるけがもあるということを実感できるような指導を展開すれば、生徒の意識変容にも繋がるのではないかと考えられる。アンケート結果や生徒の実態に基づき来年度の取り組みを各校で検討していく。

< 3 ブロック > サブテーマ『八王子市内の中学生を診てもらえる医療機関情報の見直し』

養護教諭は、怪我等による受診勧告や健康相談を受けた際、個々のケースに合わせた医療機関選択の助言を行うことが多い。3ブロックでは、昨年度までに市内の医療機関情報をまとめた資料を作成した。今年度は、その資料を更に充実させるための研究を行った。市内養護教諭を対象にアンケート形式で、作成した資料の活用状況、資料の改善点に関する調査を実施した。併せて現在情報の少ない産婦人科についても改めて情報を募った。その他、資料全体の体裁を整え、見やすく改良した。また、現在資料に掲載している医療機関の診療日時の変更、開業・閉業の有無等について確認し、最新情報へ更新した。

< 4 ブロック > サブテーマ『コロナによる子どもたちの心身の影響』

～コロナ後の子どもたちの実態～

新型コロナウイルス感染症は令和 5 年 5 月 8 日付けで、『感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）』において 5 類感染症に移行された。これにより、流行が落ち着いている平時においては、様々な教育活動が従来通り実施できるようになった。生徒が安心して学校生活を送ることができるように、まずは過渡期を経験した生徒の心と身体について実態を把握することが重要であると考えた。そこで、研究 1 年目は中学 2 年生を対象に Google フォームを使用し、アンケート調査を行った。アンケートの設問については、各校の養護教諭が生徒と日常接する中で気になっている事を中心に決定した。アンケート結果については 4 ブロック全体と各学校別（4 ブロック 9 校）にグラフ化し、各校の実態を共有することができた。今後は各学校の保健管理や保健指導の実践事例等を共有し、今後の課題等について研究を進めていきたい。

IV まとめと今後の課題

1・4 ブロックでは、コロナ禍における生徒の心身の変化に着目し、支援方法や手段の検討を、2 ブロックでは、けがの予防についての実態把握、実践例の収集等、3 ブロックでは医療機関一覧の作成等、各ブロック共、各テーマにて研鑽している。養護教諭が学校保健活動推進の中核的役割を担うために、今後も多角的に研究を重ね、研究結果を市内全校で共有し、日常業務に反映させ、養護教諭の専門性や資質の向上を狙う。

[道徳部]

研究テーマ「心を思い浮かべて話し合い、自分に照らして考えを深める道徳授業
～もうわかっているはずのことを見直しながら～◇郷土資料の開発と活用◇」

八王子市立宮上中学校 海老澤 宏

I 研究テーマ設定の理由

道徳の時間が教科化されて早いもので5年目となった。教科化にあたり、「考え議論する道徳」として、道徳授業の目指す方向が文部科学省から示され、様々な工夫がされてきた。しかしここへきて、分かり切ったことをやる、心情理解のみで終わる、が、道徳授業の課題としてよく挙げられる。では、どのような道徳授業を行えばよいのか。道徳授業を通して子どもがどのように変容すればよいのか。

中学校学習指導要領解説、特別の教科道徳編の道徳科の目標には、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とある。また、同じく学習指導要領解説の、2道徳科における評価、には、「単に知識として理解させるだけの指導や、特定の考えに無批判に従わせるような指導であってはならない。」「道徳科では、生徒が『自己を見つめ』『広い視野から多面的・多角的に』考える学習活動において、『道徳的諸価値の理解』と『人間としての生き方についての考え』を、相互に関連付けることによって、深い理解、考えとなっていく」とある。

これについてはいろいろ解説されている。しかし我々現場の強みは、子どもと直接接するところにある。道徳授業で子どもの見せる姿、そこから対面でしか感じ取れないことを基にどう授業を展開するのか。ある研究によると、コミュニケーションの7割は非言語によるものという。子どもの姿を直接見ながら内面的資質である道徳性を育むとはどういうことなのか、研究授業を中心により実践的に具体的に考えたいと願い、上記テーマを設定した。

II 研究の方法

昨年度に引き続き、ブロック毎に授業研究をすることとし、それ以外にも希望者があれば授業実践を行うこととした。理論研究より授業を見て語り合い学び合う体制が育まればよいと考え、6回の研究授業を計画した。

III 研究の内容

4月12日（金）領域主任会・教科主任会 於教育センター

10月13日（金）研究授業「幸せな仕事って」

主題名 働くことの意味

授業者 浅川中学校 主幹教諭 佐々木 淳子

内容項目 勤労

指導・助言 上柚木中学校 副校長 鈴木 啓太 先生

11月9日（木）研究授業「不自然な独り言」

主題名 思いやりの心

授業者 中山中学校 主任教諭 安元 貴幸

内容項目 思いやり、感謝

11月28日（火）研究授業「ちっぽけな勇氣」

主題名 思いやりの心

授業者 四谷中学校 教諭 坂内 駿太

内容項目 希望と勇氣 克己と強い意志

1月18日（木）研究授業「いえがあるっていいね」

主題名 家庭の大切さについて考える

授業者 打越中学校 主任教諭 岡田 敦

内容項目 C（14）家族愛、家庭生活の充実

指導・助言 横川中学校 副校長 近藤 政男 先生

3月7日（木）研究授業「未定」

主題名 未定

授業者 第七中学校 主幹教諭 村松 諭

内容項目 未定

3月14日（木）研究授業「百万回生きたねこ」

主題名 よりよく生きる喜び

授業者 宮上中学校 主幹教諭 海老澤 宏

内容項目 D（22）よりよく生きる喜び

IV 成果と課題

年間を通して6回の研究授業を実施することとなった。話し合い活動の工夫、視聴覚機器の活用、絵本の活用、対話により考えを引き出すアプローチなど、多様な指導法に関して研修が深まった。協議会の中で「何か言わせなければと思っているときは道德の授業が嫌で仕方がなかった。しかし考えればいいんだと思ったら楽しくなった。人間は、いいと悪いの間が無限にある。100点はいらない。50点が51点になるくらいでいい。」など、現場での経験からしか出てこない貴重なご意見もあった。一人で考えられることはたかが知れている。自分と意見が合わない人がいたらその人は自分にはできない考えをもっているという事。学びの輪を広げ、活動を広めていきたい。

[特別支援教育部]

固定：生徒の実態に合わせた指導と実践の工夫

特別支援教室：特別支援教育の理解を深めるための教員同士の学び合い

八王子市立陵南中学校 白石 知佳
八王子市立浅川中学校 末光 真之

I はじめに

令和元年度より、定例会を二つに分けて研修・協議を行っている。今年度、固定学級は夏季研修（企業様からの講演）と研究授業を実施し、その後活発な意見交換を行うことができた。

通級指導学級・特別支援教室は教員同士の学び合いを研究テーマに掲げ、各校で生徒との関わりの中で印象に残った場面を記録し、事例検討会を行った。夏季研修会では各校の事例検討会の取組状況を報告し合い、生徒と教員の相互理解を深めた。そして、教育課題研究推進校である浅川中学校の取り組みを共有し、具体的な取り組み内容を学ぶことができた。

II 研究の概要

1 固定学級

（1）夏季研修会

日 時 令和5年8月9日（水） 9：00～11：30

会 場 八王子市教育センター

主題名 「将来の就労を見通して中学校段階までに身につけさせたい力」

講 演 東京都障害者職業能力開発校 河井 裕雅 様

キューピーあい 山根 真希 様 高田 香代子 様

（2）研究授業・講演

日 時 令和5年11月8日（水） 13：30～16：00

会 場 第一中学校

主題名 作業学習「お客様に安心してもらえるサービスやものを提供しよう」

講 演 「特別支援学校作業学習（陶芸）について」

東京都立八王子西特別支援学校指導教諭 鈴木 誠治 先生

夏季研修会では、東障校（職業訓練施設）のカリキュラムについて、訓練指導、生活指導、就職支援の取り組みを講演していただきました。キューピーあい様からは、「自立、思いやり、社会貢献」のスローガンのもと障害のある方のために企業が実践されている、働きやすい環境整備とサポート体制について講演していただきました。研究授業では、生徒が役割を理解し自発的に作業に取り組める教材の開発とその環境整備について、第一中学校の実践から学ぶことができました。

2 通級指導学級・特別支援教室

(1) 実践発表

日 時 令和5年11月8日(水) 14:00～16:00

会 場 いずみの森義務教育学校 交流ホール

発表者 末光 真之 主任教諭(浅川中学校)

内 容 「個に応じた『自立活動』を通して、共に学び合える力を育てる」

プロセスレコードを使った事例検討会、研究授業内容の共有、アンケート調査の3つの取り組みを柱に、生徒と教員の相互理解を深める方法や生徒の自己理解・他者理解を深める方法について、発表内容を共有した。成果としては、事例検討会の実施により、教員は生徒を多面的に見られるようになった。また、特別支援教室と通常の学級との連携が深まり、視点の違いの共有ができた。課題としては、生徒同士では日常生活で互いを理解し合うことができるか、教員同士では異なる価値観を受け入れる経験を積み重ねられるか、という点を挙げた。

(2) 講評・講演

講 師 山梨学院短期大学 准教授 飯野 雄大 先生

内 容 「生徒も教員も共に学び合い、専門性を高めるために」

教員の考えや思いなどの主観に着目することは斬新であり、今後も続ける意味がある。教員自身の内面に言及することは、教員がもつ多数派な考えを可視化し、少数派の生徒の考えにも対応することが可能になる。少数派の生徒に寄り添うことがインクルーシブ教育につながる。教員の専門性を向上させるためには、支援の妥当性を担保すること、役割や意義を教員間で共有することが大切である。生徒同士が学び合うには、特別支援教室がどのような位置付けかを明確にすること、生徒が安心感や所属感をもちやすい環境にすることが大切であり、少数派と多数派が分化されない価値観をもたせることが必要である。

III まとめ

固定学級・特別支援教室に分かれて定例会を実施することにより、各々の実態に合った内容に絞って研修することができた。固定学級では企業就労に必要な力について、一般企業、東障校(職業訓練施設)に講演を依頼し、研修会を開催したことや、研究授業、協議会のなかで情報共有を図った中で、中学校の3年間で将来に結びつく基本的な指導が、いかに重要であるか改めて学ぶ機会となった。通級・特別支援教室では、生徒と教員の特徴的な関わりや印象に残った発言を記録し、それを事例として検討することで、「教員の背景に隠れていた思い」や「お互いにどのような影響を与えていたか」を知る機会となった。今後もこのような取り組みを広め、特別支援教育の専門性の向上を図るとともに、生徒の内面に寄り添った支援ができるよう各校と情報共有や連携をして支援をしていきたい。

Ⅵ 令和5年度 八王子市立中学校教育研究協議会 組織

1 役員

会 長	植田 恭正 (恩方中)
会長代理	三浦 壮次 (打越中)
副 会 長	今泉 智英 (城山中) 吉澤 隆 (檜原中)
事務局長	渡邊 和彦 (恩方中)
会 計	古川 綾子 (城山中) 茨木 雄也 (檜原中)
会計監査	河村 直和 (城山中) 糸屋 将昭 (檜原中)

2 教科・領域 部長・副部長・幹事・会計

教科・領域	幹事 (上段)、会計 (下段)	部 長 (校長)	副 部 長 (副校長)
国 語	(中) 牧野 輝道 (第七中) (中) 田中 厚 (打越中)	乙幡 英剛 (松が谷中)	三田 暢夫 (加住小中) 八重幡 理 (第五中)
社 会	(中) 黒田 ひとみ (館中) (中) 太田 皓稀 (鑑水中)	井上 竜太 (館小中)	末次 哲侍 (鑑水中) 佐野 貴宏 (いずみの森)
数 学	(中) 本木 雄大 (桐田中) (中) 安藤晃之輔 (由木中)	川島 隆 (由木中)	福島 裕子 (第五中) 松尾 克彦 (別所中)
理 科	(中) 高橋 一浩 (第六中) (中) 松本 隆 (みなみ野中)	白石貴志 (みなみ野小中)	佐々木 仁 (ひよどり山中) 吉田 る実 (甲ノ原中)
音 楽	(中) 山城 拓郎 (みなみ野中) (中) 吉田 徹 (七国中)	前田 賢一 (第四中)	大賀 優子 (館中) 児山 友美 (由木中)
美 術	(中) 和田有基子 (高尾山学園) (中) 下條 美緒 (いずみの森)	市場陽一郎 (浅川中)	吉田 直幸 (浅川中) 田中 慎二 (第七中)
保健体育	(中) 大野 裕太 (浅川中) (中) 高橋 一喜 (みなみ野中)	田野倉教泰 (城山中)	平山 公紀 (第二中) 志村 亮介 (いずみの森)
技 術	(中) 小俣 宜行 (松が谷中) (中) 田村 諭 (横川中)	長田 克 (四谷中)	岩澤 剛 (四谷中) 齋藤与志朗 (長房中)
家 庭	(中) 中原 貴子 (打越中) (中) 鈴木 美紀 (七国中)	竹田 幸恵 (横山中)	鍋島 宏司 (中山中) 中村 清孝 (第六中)
英 語	(中) 秋守 悟 (恩方中) (中) 細川 絵美 (川口中)	竹内 康裕 (第五中)	永井佐和子 (石川中) 林田 重敏 (横山中)
養 護	(中) 山口 千里 (川口中) (中) 鳥丸 由美 (八王子一中)	鷲尾 仁 (川口中)	小野 真理 (宮上中) 高田 智行 (陵南中)
道 徳	(中) 海老澤 宏 (宮上中) (中) 佐田 直樹 (上柚木中)	大房 裕司 (別所中)	近藤 政男 (横川中) 鈴木 啓太 (上柚木中)
特別支援 教育	幹事 (特別支援教室) (中) 末光 真之 (浅川中) 幹事・会計 (固定) (中) 白石 知佳 (陵南中)	深瀬 健志 (檜原中)	山寄 太 (南大沢中) 伊藤 映二 (七国中)

3 学校幹事

学 校 名	学 校 幹 事 名	学 校 名	学 校 幹 事 名
第一中	海野 洋	檜原中	茨木 雄也
第二中	鈴木 万希子	加住中	池田 慶子
第四中	丸山由美子	由井中	氏原 峻也
第五中	小又 裕幸	打越中	中原 貴子
第六中	宮島 謙二	みなみ野中	野口 桂一
第七中	竹川 理貴	七国中	森田 浩史
ひよどり山中	小沼 秀夫	浅川中	小山内 繁
甲ノ原中	永田小夜子	陵南中	白石 知佳
石川中	井上 昌巳	由木中	矢内 将洋
横山中	氏田 浩亮	松が谷中	小俣 宜行
長房中	田中 謙進	中山中	才藤 隆司
館 中	吉田 廉人	南大沢中	横山 典子
櫛田中	川西 輝子	宮上中	三留 孝之
元八王子中	長坂 良恵	別所中	正水 和久
四谷中	高原 連	上柚木中	源田洋二郎
横川中	杉村 眞吾	松木中	工藤 和子
城山中	河村 直和	鑓水中	大野竜太郎
恩方中	太田 俊佑	高尾山学園	和田有基子
川口中	山口 千里	いずみの森 義務教育学校	田原真貴子

編集委員

植田 恭正（恩方中）

三浦 壮次（打越中）

今泉 智英（城山中）

渡邊 和彦（恩方中）

吉澤 隆（檜原中）

研究概要 第62号

令和6年3月発行

編集・発行 八王子市立中学校教育研究協議会

会 長 植田 恭正

（八王子市立恩方中学校長）

（事務局）八王子市立恩方中学校